

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/11)

学部・学科	臨床心理学部・教育福祉心理学科	職名	准教授	氏名	オオマエ アキマサ 大前 暁 政		
学歴	平成12年 3月 岡山大学教育学部 卒業 平成14年 3月 岡山大学大学院教育学研究科修士課程 理科教育専攻 修了						
学位	平成14年 3月 教育学修士 (岡山大学)						
専門分野	理科教育学、教育学、臨床教育学						
専門資格	小学校教諭専修免許状 (平13小専第20号) 中学校教諭専修免許状 (理科) (平13中専第70号) 高等学校教諭専修免許状 (理科) (平13高専第89号) 中学校教諭二種免許状 (社会) (平11中二第144号) 学校図書館司書教諭資格 (221874号)						
所属学会	平成17年 4月 日本初等理科教育研究会 平成24年 6月 日本教育学会 平成24年 9月 日本理科教育学会 平成24年10月 日本教育技術学会 平成25年 4月 日本教師教育学会 臨床教科教育学会 日本教師学学会 日本教科教育学会 平成26年 9月 日本教育実践方法学会 (監事)						
受賞	平成19年12月 第7回ソニー子ども科学教育プログラム入賞						
担当 授業科目	学 部 初年次演習、教育福祉心理学基礎演習、教育方法論、初等教科教育法 (理科)、教育福祉心理学実践演習 (学校インターンシップ 1)、教育福祉心理学実践演習 (学校インターンシップ 2)、教育福祉心理学演習、教育福祉心理学演習、専門「理科」						
論文指導							
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数			
	専門「理科」	講義・演習・実習・実験	春・秋	53 名			
	授業の概要：理科の授業を行う上で必要となる、教科書で扱う内容の背景にある専門的知識や専門科学の面白さに繋がる視点を獲得することを目的とする。本講義では、理科授業を行うために必要となる基礎的な科学的内容や考え方について、生物分野、地学分野、化学分野、物理分野などについて教授していく。また、理科の授業理論や方法を教え、自分で授業を創るための素地を養っていく。講義だけでなく、実験や模擬授業体験を通して、理科の専門的な知識、実験技能、理科教育に関する理論と方法の三つの内容を修得する。						
1	教育活動の振り返り：						
	授業満足度は、中間・期末の合計として、熱心に取り組めたかについては、「そう思う」と答えた学生が約90%であり、理科の授業を行うための背景となる理科の基礎的知識と、授業づくりのための理論と方法、実験技能について、熱心に学習に取り組めたことがうかがわれる。また、ほぼ全員が授業満足度について高いと回答しており、学生の声として、「実験が有意義であった」、「模擬授業を大学教師がしてくれるので分かりやすかった」、「ただ話を聞く講義形式でなく、実践的に学べた」、「前半で学んだ理科授業の理論や実験方法が、後半の模擬授業の実施で活用できて、より理解が深まった」というものがあり、実践的な学びができたことで、有意義な学習になったことが考えられる。また、物理、化学、生物、地学分野の各分野の実験を毎回取り入れることで、体験的に授業のやり方や実験の進め方、実験の安全管理の仕方などについて体験的に学ぶ機会を保障することができた。						

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/11)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績	1	教育活動の成果： 大学教員による模擬授業と、理科授業に必要な実験の実施、小学校理科の背景にある科学的な専門的知識の教授、指導案の作成と模擬授業の実施の4つの工夫を取り入れたことで、他大学にはない実践的な「専門理科」の講義になったと考えられる。本講義は、理科授業の具体的な展開や、教師の指導助言をどう進めるかについて、実践的に習得することを目的として行ったため、理論と実践のバランスを重視しながら教授を行ったことが功を奏したと考えられる。また、理科授業の理論や展開の型を学んだ上で、その理論や実践例を参考にしながら学生自らが授業を考案していく場も用意した。そして考案した授業を模擬授業形式で行い、大学教員が指導助言を行った。学生は実際の授業をするという経験を通して、実践的に理科授業の方法や技術を学ぶことができたと考えられる。この講義の成果は、日本教師学学会で報告を行った。 今後の課題： 日常の理科授業で、科学のすごさ、素晴らしさを伝えることのできる教員の基礎をつくるという目的のため、より小学校現場で必要となる理論や実践の教授をしていくことが必要になると考えられる。また、実験や科学の専門的な知識の習得に苦手意識をもっている学生が少なからずいたことから、小学校理科の背景にある専門的な理科の知識については、より多くの資料を用意したり、教授の機会を増やしたりするとともに、学生自身に予習や復習をしていくように促していくことが必要だと考えられる。また、実験の体験や、大学教師による模擬授業の実施は学生にとって非常に好評であったことから、このような体験的な講義方法について、他大学にはない良さとして、より効果的な講義方法を今後も検討・洗練していきたい。							
		<table> <tr> <th>科目名</th><th>科目カテゴリー</th><th>実施学期</th><th>履修者数</th></tr> <tr> <td>教育福祉心理学実践演習</td><td>講義・<u>演習</u>・実習・実験</td><td><u>春</u>・<u>秋</u></td><td>約20名</td></tr> </table>	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	教育福祉心理学実践演習	講義・ <u>演習</u> ・実習・実験	<u>春</u> ・ <u>秋</u>
科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数						
教育福祉心理学実践演習	講義・ <u>演習</u> ・実習・実験	<u>春</u> ・ <u>秋</u>	約20名						
	授業の概要： 学校でのインターンシップ活動を積極的に推進し、その報告とディスカッションを2週間に1回の授業の中でゼミ形式で行い、担当教員とともに活動の意味について省察する。各自が体験してきたインターンシップでの教育活動を実習記録にまとめ、実習記録をもとに発表を行い、グループディスカッションを行い、その後、担当教員からの指導助言を受ける。								
2	教育活動の振り返り： 授業を熱心に取り組めた、シラバスに示された目的・目標に向かって進歩したかなどの授業満足度が90%を超えており、学生の声として、「先生の経験談等による貴重なアドバイスがすごく参考になりました。」「皆でインターンシップを振り返り、話し合ったので、自分の経験・体験以上に学ぶことが多かった。」「困ったこと、良かったこと、悪かったことなど、先生に聞いて改善することができたので良かった。」など、前向きな評価が多く見られた。特に、学生のコメントカードには、臨床教育的な知見と、臨床心理学的な知見とで、両方の具体的なアドバイスがもらえることに対して、非常に大きな学びになったとの回答が多く見られた。 教育活動の成果： 4人程度のグループをつくってインターンシップ活動の報告会を行い、活動報告だけでなく、「学びになったこと」「困ったこと」「先生に尋ねてみたいこと」の三つを交流させるようにした。さらに、「困ったこと」と「先生に尋ねてみたいこと」の二つは、あらかじめ4人グループで、学生なりの答えを考えておくようにし、その答えを発表した上で、大学教師からのコメントを聞くという形式で進めた。学生にとっては、学生自身が考えた答えや対応方法よりも、大学教師が具体的に示す理論と実践の方がより深みと広がりがあるものであったため、大きな学びになったようである。学校現場で過ごす体験をもつことを通じて、学生が学校現場での子どもたちへの関わりを具体的に経験し、3年生での教育実習に向けた経験を蓄積することができたものと考えられる。また、一日の生活への流れを体験した上で、その体験を、プロセスレコードにより振り返り、心理支援の側面も含め、多元的な児童理解・学校理解を深めるきっかけになったと思われる。現場でのボランティア体験を通して、悩んだことやうまくいった事例などを検討し、教科に関すること、子どもへの対応に関すること、特別支援教育、心理学、学級経営に関することなど、幅広く学生の問題意識をとらえ、心理学や教育学の視点から助言をし、実践的な力と姿勢を身に付けるきっかけにすることができたと考えられる。								

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/11)

F D 活 動 ・ 教 育 実 績	今後の課題： より詳しい訪問の記録をとることができるようになると、グループディスカッションにおける実践の交流もより深まりが出てくると考えられる。訪問の記録の取り方の指導を含め、適切に、しかも内容の濃い記録がとれるようにしていく必要がある。また、インターンシップで学んだ内容をその後の教育実習に生かすためには、グループディスカッションで学んだことと、その後の大学教師からの指導や助言で学んだことをしっかりと記録し、自分の財産としてノートポートフォリオなどの形に残していくことが必要であり、そのための指導をきちんと時間をかけて行っていくことが必要と考えられる。また、大学教員からの具体的な指導助言を、その後のインターンシップでの教育活動にどう生かすことができたのかの振り返りも充実させたい。 ・学内外のFD 関連講演会/セミナー等への参加実績 平成26年 9月 1. 日本教師教育学会第24回研究大会に参加。実習指導のあり方について研究協議を行う。於：玉川大学 2. 日本教育実践方法学会発足記念研究大会に参加。教師教育のあり方について研究協議を行う。於：関西福祉大学 平成26年10月 学内 2014年度第1回FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える」に参加 平成27年 2月 日本教師学学会第16回大会に参加。アクティブラーニングを保障する講義方法について研究協議を行う。於：日本女子大学 平成27年 3月 学内 2014年度 第2回FD講演会「授業と評価をつなぐ為に ～ルーブリック評価入門～」に参加。 ・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等 ・ 正規授業時間外での学生相談及び学生指導を行った。 ・ オフィスアワー等での今後の進路や資格取得に伴う相談や、指導案及び模擬授業の実施方法に関する指導を行った。
H26 年度 研究課題	1. 自立した子どもに育てる日本型教育プログラムに関する総合的研究 2. 実践的指導力を養うための教員養成プログラムに関する研究 3. 子どもが進んで追究するための科学教育プログラムに関する研究 4. 若手教師の現場への適応および教師力向上支援に関する総合的研究
平成二十六 (2014) 年度の 研究活動の概要	1. 「自立した子どもに育てる日本型教育プログラムに関する総合的研究」では、学制以来の日本における学級経営実践と、世界の教育方法を参考に、現代に通用する形で、学級経営の理論と実践をまとめた。現在の教育現場では、自信のない子、規範意識のない子が増えていることが問題となっている。そこで、自尊感情や規範意識を高め、自立に導くための、小学校教育・幼児教育のあり方の研究を進めた。現代化に関して、具体的にはこれからの学級経営の一つの重要なポイントである「自立」を視点として、自立に導く学級経営の筋道を明らかにすることを指し、学級経営プログラムの考案を行った。特に、戦前・戦後の学級経営で足りなかった点である「授業づくりと、学級経営を連動させて、相乗効果を狙うこと」、「自由な意思で自分の道を選択できる自立心を育てること」、「高い目標に向かって努力を続ける姿勢を育てること」などに対して、どのように進めるべきなのかを明らかにした。また、これまでではどちらかと言えば、学級経営は、教師の管理の側から語られることが多くあったが、子どもの自立を促すには、子どもが学級経営に参画するといった視点も必要になってくるため、その点に対しての理論と実践もまとめた。研究の成果は、単著「子どもを自立へ導く学級経営ピラミッド」としてまとめ、発表を行った。 後述：(著書)2 2. 「実践的指導力を養うための教員養成プログラムに関する研究」では、学生時代に教師としての力を確実に身につけるための教員養成プログラムの開発・研究を行い、教師として必要な知識と技能を明らかにし、それをどのように教えることで効果的な学びが得られるのかについて、調査研究を行った。理論と実学をバランスよく学べるような教員養成課程プログラムを考えるため、具体的には、「理科教員養成プログラムに関する研究」と、「教員養成課程

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/11)

平成二十六年 (2014) 年度の研究活動の概要	において、どのような実践的指導力を身に付けるべきかの研究」、「学級経営の力を教員養成課程において習得するための、講義のあり方に関する研究」の三つのテーマから研究を行い、日本教師教育学会で成果を発表した。「理科教員養成プログラムに関する研究」では、専門「理科」の講義において、科学的な知識と、理科教育に関する理論と方法、実験技能の三つを習得させるための講義のあり方を検討し、実際に講義で実践することで効果を確かめた上で、効果的な講義方法についてまとめ、日本教師学学会にて学会発表を行い、研究協議を行った。 後述：(学会報告、学会活動)学会発表4 「教員養成課程において、どのような実践的指導力を身に付けるべきかの研究」では、現場教師に対してアンケート調査やインタビューなどを実施し、現場に適應する上で、どのような実践的指導力を身に付けておくべきなのかを調査、検討した。その成果を論文としてまとめ、発表した。 後述：(論文)4 「学級経営の力を教員養成課程において習得するための、講義のあり方に関する研究」については、文献や各大学の講義内容を参考として、必要な学級経営の指導力について検討し、大学の15回という限定された回数の講義の中で、どのような学級経営に関する内容を、どのように教えるべきなのかについて、論文としてまとめ発表した。 後述：(論文)5 3. 「子どもが進んで追求するための科学教育プログラムに関する研究」では、科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金(若手研究B)の研究代表者として 後述：(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)、大学付属小学校をはじめとして、京都府下の小学校や、京都市内の小学校、愛知県、大阪府、大阪市などの小学校と連携し、子どもが進んで理科を学ぶための授業の工夫について研究協議や授業実践を行った。子どもを理科好きにし、理科を得意にする指導法の研究を進め、新時代に対応する「新しい授業」の開発、今までの教え方を発展させる研究や、今までにない新しい教え方を開発する研究を行った。また、「教材開発」や「授業づくりの方法」、「授業技術」の三つについて、子どもが進んで学ぶための条件を明らかにするため、「探究型」と「活用型」の理科授業に関する実践と研究を行った。3年理科「磁石のはたらき」や、4年理科「物の温まり方」などの単元において、研究のための公開授業を実施し、その後の研究協議で子どもが自発的に探究を始めるための授業環境の条件や、授業づくりの条件について研究を深めることができた。 4. 「若手教師の現場への適應および教師力向上支援に関する総合的研究」では、特に小1プロブレムに焦点を当てて、小学校1年生の担任は、他の学年の担任と比べて、幼稚園や保育所との連携が必要なことや、入学した1年生が学校にうまく適應する上でどのような支援が必要なのかを自立を視点として検討を行った。また小学校1年生の担任をしたことがある現役小学校教師にアンケート調査を行い、小1プロブレムの現状把握に努めた。今後、現場の教師全体における若手の割合が3分の1にまで到達する現状を受け、若手教師が現場でどのようなことに悩んでいるのか、成長支援のために何ができるのかについて調査を行い、教師が教育現場に出たときに、どのように教師力を身に付け成長していくのかの「教師力を高める筋道」の研究を行った。特に、若手教師に必要な教師力とは何かについて、文献調査を行い、若手教師に必要な力として「授業力」、「学級経営力」、「子どもへの対応力」の三つを視点として研究を行い、研究成果を、新聞紙上や教育記事の連載、単著、論文としてまとめ、公開した。 後述：(論文)6,7
平成二十六年 (2014) 年度の主な研究成果等	(著書) 『子どもを自立へ導く 学級経営ピラミッド』、単著、平成27年2月、明治図書、176p 『若い教師がぶつかる「壁」を乗り越える指導法!』、単著、平成27年2月、学陽書房、184p 『勉強ができる! クラスのつくり方』、単著、平成27年3月、東洋館出版社、256p 『大前流教師道 ―夢をもちつづけることで教師は成長する』、単著、平成27年3月、学事出版、220p 「Chapter5 理科授業&学習のユニバーサルデザイン」、共著(第5章担当)、平成26年9月、明治図書、『小学校の学びを変える! 授業と学習のユニバーサルデザイン』(pp.82-101) 「1 理科の学習指導の概要」「2 理科における授業の進め方」「3 学習指導案作成上の留意点」、共著(9章 各教科の指導 理科 の当該部分担当)、平成27年1月、小学館、『学校生活がわかる! 教師実用マニュアル』(pp.138-143)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (5/11)

平成二十六 (2014) 年度の主な研究成果等

(論文)

1. 「特集 こんな先生が好き 子どもに厳しいと思われることを恐れない教師」、単著、平成26年5月、金子書房、児童心理2014年5月号 第68巻第7号 (pp.67-71)
2. 「小学校理科の授業づくり 4年(3)天気の様子」、単著、平成26年9月、図書文化社、指導と評価2014年9月号 Vol.60-9 №717 (pp.57-59)
3. 「小学校理科の授業づくり 5年(4)天気の変化」、単著、平成26年9月、図書文化社、指導と評価2014年10月号 Vol.60-10 №718 (pp.57-59)
4. 「現場に必要とされる実践的指導力を身に付けるための小学校教員養成課程に関する課題と展望」、単著、平成27年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第7集 (pp.3-16)
5. 「教員養成課程において「学級経営の方法」を修得させることを目指した講義内容と講義方法の提案」、単著、平成27年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究第4集 (pp.55-74)
6. 「小1プロブレムに対応する就学前教育と小学校教育の連携に関する基礎的研究」、単著、平成27年3月、京都文教大学 人間学研究第15集
7. 「教育方法と授業技術を意識化させ、習得させるための「教育方法論」の実践」、単著、平成27年3月、日本教師学学会 教師学研究第16集

(学会報告、学会活動)

学会発表：

1. 「活用力を高める教材と授業のあり方に関する基礎的研究 ～4年「物の温度と体積」の実践を通して～」共同、平成26年8月、日本理科教育学会第64回全国大会、愛媛大学
2. 「児童の探究心を持続させ、問題解決の達成感を高める授業展開」、共同、平成26年8月、日本理科教育学会第64回全国大会、愛媛大学
3. 「教員養成課程で育てたい実践的指導力を学生へ意識づけるための基礎的研究」、単独、平成26年9月、日本教師教育学会第24回研究大会、玉川大学
4. 「理科教育の専門性と指導力を高めるための教職専門科目「理科」講義のあり方に関する基礎的研究」、単独、平成27年2月、日本教師学学会第16回学術大会、日本女子大学

学会活動：

1. 「日本教育実践方法学会 第16回学術大会」、進行役、平成27年2月、日本教師学学会第16回学術大会、日本女子大学
2. 「日本教育実践方法学会 学習会パネルディスカッション」、単独、平成27年3月、日本教育実践方法学会第1回学習会、京都文教大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

1. 明治図書ホームページ上の教育記事「教育zine」にて、「教師なら必ずマスターしたい指導技術集」を12回にわたって執筆。(平成26年4月-平成27年3月)『子どものやる気を引き出す条件』(4月号)『子どもをスマートに率いる5原則』(5月号)『正直者が報われるようフォローする』(6月号)『「教師一人 対 集団」の限界』(7月号)『「西洋医学」と「東洋医学」』(8月号)『リーダーシップvsコーチング』(9月号)『「自立」を意識した意図的な対応を』(10月号)『「自律的な行動」に導く』(11月号)『「自律的な行動」に差が出る理由』(12月号)『教師の熱を移す』(1月号)『ヒドゥンカリキュラムを意図的に活用する』(2月号)
2. 著者インタビュー「子どもを自立へ導く 学級経営ピラミッド」、教育Zine 2015 (平成27) 年2月
3. 教育新聞の教育記事「連載 教師力アップのためのポイントと心がけ」、教育新聞紙上にて、教師力アップのための授業の工夫を11回にわたって執筆 (平成26年5月-平成27年3月)『「学習者の主体性」を引き出していますか?』(5月号)『学習前の動機付けをしていますか?』(6月号)『「本当に分かった!」への到達』(7月号)『子ども主体の学習に移る前に』(8月号)『教えるのを躊躇しないように』(9月号)『チームで学習する環境を整える』(10月号)『内なるやる気を引き出す』(11月号)『一度失敗させておいてからの成功体験』(12月号)『受け身にさせない「授業の組み立て」』(1月号)『子どもは教師に感化される』(2月号)『自己評価と自己修正』(3月号)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (6/11)

平成二十六年 (2014) 年度の主な研究成果等	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等 つづき) 4. 日本教育新聞社の記事取材、週刊教育資料にて「悩む前に鍛える教師のための「メントレ」」として、教師の世界のメンタルトレーニングが必要であることを紹介し、教育記事が掲載される。「教育資料No.1300」(平成26年6月) 5. 日本私学新聞及び、内田洋行教育総合研究所がつくる、教員や保護者、教育に興味のある方へ向けて、教育関連情報を提供するWEBサイト「学びの場.com」にて「子どもを自立へ導く学級経営ピラミッド」の紹介文が掲載される。(平成27年3月) (調査活動) 平成26年 4月 京都市立桃山小学校理科主任・校長との授業連携の協議 平成26年 5月 日本教育新聞社との教師教育に関する打合せ 平成26年 9月 京都文教短期大学付属小学校との今後の研究連携の協議と、講義における連携の協議、於：京都文教短期大学付属小学校 平成26年12月 1. 東大阪市教科研究会総会における東大阪市立高井田東小学校理科公開授業に参加 2. 南丹市立園部第二小学校 + 川辺小学校の地域合同授業研究会に参加 3. 日本教育実践方法学会会計監査の協議 4. 日本初等理科教育研究会への参加、於：千葉市立緑町小学校 平成27年 1月 京都市立久我の杜小学校研究会、於：京都市立久我の杜小学校 平成27年 2月 関西大学初等部研究会、於：関西大学初等部 平成27年 3月 日本教育実践方法学会学習会、於：京都文教大学 (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成26年度 - 平成28年度 科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金 (若手研究B) 「小学校理科における科学的思考力・表現力育成のための自律型探求学習モデル・教材開発」(課題番号26750070) 研究代表者 (学内活動) FD委員会委員、人間学研究所所員 (人間学研究編集長)、小学校教職課程委員会
平成二十六年 (2014) 年度の社会における活動	(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託) 平成26年11月 平成26年度秋期教員免許状更新講習講師、「授業と学級経営の相乗効果で子どもの可能性を伸ばす」、於：京都文教大学 (NPO法人等の団体への参画) 平成26年 5月 NPO法人元気な学校を支援し創る会 平成26年度「教師力アップセミナープログラム」講師、「学級づくりの道筋」と「理科の授業づくり」、於：愛知県丹羽郡大口町立大口中学校 (小中高との連携授業の講師) 平成26年 6月 キャリアアッププログラム授業「小学校教員養成課程で学ぶ子どもの心に寄り添う指導のあり方」、於：京都文教高等学校 平成26年 9月 関西大学初等部研究会の研究授業3年理科「植物の体のつくり」への指導助言と連携、於：京都文教大学 平成26年10月 京都市立久我の杜小学校との4年理科「物の温度と体積」の研究授業に関する指導助言と連携、於：京都文教大学 平成26年11月 京都文教短期大学付属小学校との4年理科「物の温まり方」の研究授業に関する指導助言と連携、於：同校 平成26年12月 京都文教短期大学付属小学校との4年理科「物の温まり方の最終場面における活用型理科」に関する研究授業への指導助と連携言 於：同校 平成27年 1月 京都市立久我の杜小学校との4年理科「物の温度と体積の探究場面」に関する公開授業の指導助言と連携 於：同校 平成27年 2月 関西大学初等部との3年理科「磁石の力」に関する公開授業の指導助言と連携、於：関西大学初等部

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (7/11)

平成二十六年 (2014) 年度の社会における活動	(自治体や企業における研修等の講師) 平成26年 7月 名古屋市教育センター・名古屋市教育研究員の研究指導、研究テーマ「自分の考えを導き出すことができる児童の育成 ～人とのつながりを生かして～」 (研究員の指導・助言：平27.3まで) 平成26年 5月 教育委員会・東大阪市小学校教育研究会主催 講演会「理科の授業で大切にしたいこと」、対象：東大阪市教職員(主に理科主任)、於：東大阪市ドリーム21 平成26年 8月 伏見西支部校長会主催 伏見西支部小学校教諭研修会講演会「学級経営で学習の基盤をつくり、授業をより充実させる方法」、対象：伏見西支部の全教職員(350名)、於：京都文教大学 平成26年 9月 関西大学初等部・関西大学初等部理科主任の研究連携、テーマ「理科における活用、推論、説明活動の関する基礎的研究」(現在に至る) 平成26年12月 1. 東大阪市立高井田東小学校理科公開授業への指導助言及び講演会(東大阪市理科研究会総会)、テーマ「理科の授業で大切にしたいこと」、対象：東大阪市理科研究会会員、於：東大阪市立高井田東小学校 2. 学力向上システム開発(京都府教育委員会指定研究)に関わる京都南丹市立園部第二小学校・川辺小学校 地域合同授業研究会 講演会「学級経営と授業の充実で子どもを伸ばす」、対象：地域の小学校教員、於：南丹市立園部第二小学校 平成27年 1月 堺市教育センター「はじめての転勤者研修」、講演会「学級経営と授業の充実で、新しい学校でさらに子どもを伸ばす」、対象：堺市内小学校教員、於：堺市教育センター (その他) 平成26年度 京都市内小学校校長、教頭、教諭及び京都市教育委員会指導主事や大学教員と連携し、新任教員が現場に適應できるように必要な知識と技能の検討を行い、教員研修などで使用可能なマニュアルとしてまとめるための作業を行った。「平25.12より」 平成26年 6月 明治図書と紀伊國屋書店の共同企画「名人教師の本棚」にて、教師として読むべき図書資料の紹介と推薦文が掲載される。 https://www.kinokuniya.co.jp/c/store/Shinjuku-Main-Store/20140427130808.html 平成26年 8月 京都文教大学オープンキャンパス模擬授業講師、「子どもの心に寄り添う仕事と教師としての生きがい」、於：京都文教大学 平成27年 2月 1. 啓林館教科書「小学校理科3年～6年」の編成方針に関する指導助言、於：京都文教大学及び啓林館「現在に至る」 2. 宇治市高齢者アカデミー「義務教育における宇治市学力向上に関する提案」に関連する研究調査への取材協力
平成二十一年(2009～2013) 年度の研究成果等	(著書) 1. 『なぜクラスじゅうが理科を好きなのか ―全部見せます小3理科授業―』、単著、平成21年7月、教育出版、200p 2. 『必ず成功する！学級づくりスタートダッシュ』、単著、平成22年2月、学陽書房、136p 3. 『なぜクラスじゅうが理科に夢中なのか ―全部見せます小5理科授業―』、単著、平成22年3月、教育出版、232p 4. 『忙しい毎日を劇的に変える仕事術』、単著、平成22年7月、学事出版、168p 5. 『仕事の成果を何倍にも高める教師のノート術』、単著、平成22年9月、黎明書房、148p 6. 『教壇に立つのが楽しみになる修業術』、単著、平成22年12月、ひまわり社、255p 7. 『100人の先生が選んだこども古典 ひとことで音読する古典』、平成23年1月、ほるぷ出版、111p(共同研究のため本人担当部分抽出不可) 8. 『100人の先生が選んだこども古典 1分で音読する古典』、平成23年3月、ほるぷ出版、111p(共同研究のため本人担当部分抽出不可) 9. 『100人の先生が選んだこども古典 5分で音読する古典』、平成23年3月、ほるぷ出版、111p(共同研究のため本人担当部分抽出不可) 10. 『必ず成功する！授業づくりスタートダッシュ』、単著、平成23年2月、学陽書房、128p

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (8/11)

平成二十一年（2009～2013）年度の主な研究成果等

（著書 つづき）

11. 『スペシャリスト直伝！理科授業成功の極意』、単著、平成23年6月、明治図書、160p
12. 『プロ教師の「子どもを伸ばす」極意』、単著、平成23年11月、明治図書、148p
13. 『どの子どもも必ず体育が好きになる指導の秘訣』、単著、平成23年12月、学事出版、160p
14. 『学級担任が進める通常学級の特別支援教育』、単著、平成24年1月、黎明書房、181p
15. 『スペシャリスト直伝！板書づくり成功の極意』、単著、平成24年4月、明治図書、136p
16. 『たいくつな理科授業から脱出する本 —これだけは身につけたい理科の授業技術—』、単著、平成24年4月、教育出版、160p
17. 『なぜクラスじゅうが理科を得意なのか —全部見せます小6理科授業—』、単著、平成24年4月、教育出版、208p
18. 「順序良く整理して調べよう」、共著（当該部分担当）平成24年6月、明治図書、向山洋一・木村重夫編、『算数完ぺき習得！授業で使える新難問・良問＝5題1問選択システム6年』（pp.102-109）
19. 『プロ教師直伝！授業成功のゴールデンルール』、単著、平成25年3月、明治図書、168p
20. 「1. 子どもの心をがっちりつかむ「ほめ方・しかり方」「2. 時や場を考えた子どもへの「言葉かけ」」「3月の学級経営フレッシュ先生応援 子ども・保護者との関わり方」内）共著（当該部分担当）平成25年3月、小学館、『クラスの一体感が高まり、笑顔あふれる 二年生いきいき学級経営』（pp.186-197）
21. 『なぜクラスじゅうが理科のとりこなのか —全部見せます小4理科授業—』、単著、平成25年4月、教育出版、200p
22. 『プロ教師の「折れない心」の秘密 ～悩める教師への50のアドバイス～』、単著、平成26年2月、明治図書、164p
23. 「二酸化炭素が多い気体の中で物が燃えるかを調べよう」、共著（第2章理科当該部分担当）平成26年2月、学事出版、『国・社・算・理の実践を紹介！言語活動が充実するおもしろ授業デザイン集 高学年』（pp.98-101）
24. 「生き物の情報をみんなで集めよう」、共著（第2章理科当該部分担当）平成26年2月、学事出版、『国・社・算・理の実践を紹介！言語活動が充実するおもしろ授業デザイン集 中学年』（pp.86-89）

（論文）

1. 「連載 若手教師なら押さえておきたい体育主任の仕事」、単著、平成21年4月-平成22年3月、大修館書店、体育科教育（2009年4月号-2010年3月号・毎月・全12号）（pp.54-55「新学期に最高のスタートを切るために」 pp.66-67「最初の体育部会ですべきこと」 pp.58-59「水泳指導マニュアルを提案する」 pp.70-71「ファシリティマネジメントを取り入れてみよう」 pp.64-65「ファシリティマネジメントを取り入れてみよう」 pp.74-75「運動会をマネジメントする」 pp.66-67「競技会への参加でドラマを生み出す」 pp.72-73「記録会を運営する」 pp.72-73「特別支援教育に対応する」 pp.70-71「休み時間を使つての「運動イベント」をマネジメントする」 pp.64-65「体力向上プログラムを提案する」 pp.68-69「日々の授業を充実させる方策」）
2. 「実感を伴った理解を図る「電気」の学習」、単著、平成21年5月、農山漁村文化協会、初等理科教育2009年5月号（№540）今こそ、自然観察力を育てたい（pp.66-69）
3. 「「教師の発問・指示」と「表現の型」により思考を促し、考えを言語化させる」、単著、平成21年12月、学事出版、月刊授業づくりネットワーク2009年12月号 特集：言語力を鍛えるノート指導 理科（pp.16-18）
4. 「活動の中でそのつど規律を教える」、単著、平成22年4月、大修館書店、体育科教育2010年4月号 特集：体育授業で「学習規律」にどう取り組むか 学習規律 —何から、どのように（pp.36-39）
5. 「自尊感情を高く維持する叱り方が子どもを変える」、単著、平成22年6月、学事出版、月刊生徒指導2011年8月号 特集：研こう！生徒指導のチカラ（pp.24-26）

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (9/11)

平成二十一
～二十五
(2009～2013)
年度の主な研究成果等

(論文 つづき)

6. 「主体的な調べ学習をどう進めるか —— 「教えてほめる」行為が子どもを伸ばす」, 単著、平成22年9月、金子書房、児童心理2010年10月号 特集：自主性を育てる (学校で自主性・自律性を育てる) (pp.60-64)
7. 「(学級経営こそ自己鍛錬 二十代は徹底的にまねる) 「子どもを引きつけ、注目させる力」をどう身につけるか」, 単著、平成22年10月、日本標準、子どもを「育てる」教師のチカラ№3 (季刊2010 AUTUMN) 特集：教師の自己鍛錬法 (指導力アップ) (p.63)
8. 「指導と評価を一体化した授業づくり — 小学校理科」, 単著、平成23年5月、日本図書文化協会、月刊誌 指導と評価2011年5月号 (Vol.57-5、№677) (pp.16-18)
9. 「子どもの知的好奇心が生み出されるとき」, 単著、平成23年6月、金子書房、児童心理2011年7月号 特集：子どもの知的好奇心 (子どもの知的好奇心に向き合う教師) (pp.56-57)
10. 「大事なものは「疑問を見つけようとする姿勢」の育成」, 単著、平成23年7月、日本標準、子どもを「育てる」教師のチカラ№6 (季刊2011夏) 特集：小学校低学年から中学生まで「教科の授業」で子どもの全力UP大作戦！ (小学校理科・高学年) (p.44-45)
11. 「時間術で「子どもを伸ばす仕事」を」, 単著、平成23年7月、音楽之友社、教育音楽 中学・高校版 2011年8月号 特集：夏休みこそ自分磨き【Part2】2学期から即実践！効率アップの時間術 (pp.42-44)
12. 「力量を高めるための時間術 ～ちょっとした工夫で、時間は生み出せる～」, 単著、平成23年8月、学事出版、月刊授業づくりネットワーク2010年6月号 第2特集：叱る技術 ～本から学ぶ～ (pp.38-39)
13. 「明日からの理科授業がかわる 授業づくりの極意とは」, 単著、平成23年11月、小学館、総合教育技術2011年11月号 (p.119)
14. 「《実物に触れる楽しさ》を大切にしたい、理科好きの子どもを育てる授業づくり」, 単著、平成23年12月、総合教育技術2012年1月号 特集1：こうすれば授業が変わる！子どもが伸びる！「最高の授業」のつくり方【Part2】8つの注目実践を紹介 全国縦断「最高の授業」レポート (pp.30-33)
15. 「(フレッシュ先生応援企画) 子どもの心をはっきりつかむ「ほめ方・しかり方」」, 単著、平成24年3月、小二教育技術2012年4月号 特集：子どもの笑顔がはじけるいきいき「学級経営」 (pp.58-63)
16. 「管理職・ミドルリーダー・中堅・若手に聞いた「夢」「喜び」「今年の目標」」, 単著、平成24年4月、総合教育技術2012年5月号 特集1：学校の力は副校長・教頭、教務主任で決まる！いま求められる「学校サプリーダー」の条件 (p.65)
17. 「他人任せにする子」, 単著、平成24年6月、金子書房、児童心理2012年7月号 特集：行動力のある子 (こんな子にどうかかわるか) (pp.93-97)
18. 「(5 ベテラン教師が伝授) 時や場を考えた子どもへの「言葉かけ」」, 単著、平成24年8月、小学館、小二教育技術2012年9月号 特集：[夏休み明け]子どもを授業に集中させるコツ (pp.42-47)
19. 「【教科 不易と流行】理科教育の不易と流行」, 単著、平成25年2月、新潟大学教育学部附属新潟小学校 Fnet+「授業の研究」184号 特集：評価から指導を考える創造的思考力を高める授業 (pp.30-31)
20. 「指導と評価を一体化した授業づくり小学校理科 — 目標像をもち評定・助言を繰り返すことで子どもを伸ばす」, 単著、平成25年4月、図書文化社、指導と評価2013年4月号 Vol.59-4 №700 (特集：指導と評価を一体化をめざす) (pp.42-47)
21. 「1年間を通して使えるルールを教え、ほめることで定着させよう」, 単著、平成25年4月、明治図書、授業力 & 学級統率力2013年4月号 (特集：学級のきまり & 授業ルール = 黄金の法則) 授業のルールをどう決めるか 校外活動 (pp.82-83)
22. 「「理科を学ぶ意味」を普段の授業で積極的に語ろう」, 単著、平成25年4月、東洋館出版社、理科の教育通巻729号 (特集：先生！なぜ理科を学ぶの？) (pp.23-24)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (10/11)

(論文 つづき)

23. 「仲間づくりの学級経営の工夫 ―差別構造を破壊する気概が教師にあるか」、単著、平成25年6月、金子書房、児童心理2013年7月号 第67巻10号 (特集：仲間はずれにされる子) (pp.35-41)
24. 「小学校教員養成課程の変遷と課題に関する研究」、単著、平成26年3月、京都文教大学 臨床心理学部研究報告第6集 (pp.55-72)
25. 「小学校理科における探究学習の成立に必要な諸条件の検討」、単著、平成26年3月、京都文教大学 心理社会的支援研究第3集 (pp.67-80)
26. 「理科における学びの形態の工夫 ―授業に協同学習をどう取り入れるか」、単著、平成26年3月、図書文化社、指導と評価2014年3月号 Vol.60-3 №711 (特集：学びの形態を工夫する) (pp.16-18)

(学会報告、学会活動)

1. 「『進んで問題解決する姿勢』を育てる理科授業の条件」、単独、平成25年8月、日本理科教育学会第63回全国大会、北海道大学
2. 「教育方法と授業技術を意識化させ、習得させるための「教育方法論」の実践」、単独、平成26年3月、日本教師学学会第15回大会、環太平洋大学

(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)

エッセイ：

1. 共同通信社の新聞記事取材、全国の新聞に「理科における探究心、どう育む」として掲載。(平成25年4月)
2. 明治図書ホームページ上の教育記事「教育zine」にて、「教師なら必ずマスターしたい指導技術集」を12回にわたって執筆。(平成25年4月-平成26年3月)
3. 著者インタビュー「プロ教師の「折れない心」の秘密」、教育Zine 2014 (平成26) 年3月

その他：

1. 新聞紙上での理科実践の公開 (2010 (平成22) 年6月21日号山陽新聞社) 5年生「電流のはたらき」や、動物の進化に関する授業を公開し、二度わたって取材を受け、新しい理科教育の方向性を提案した。記事はカラー写真入り大きく紹介され、子どもを理科好きにする方策を示すことができた。
2. 学校教師が使用するノート「School Planning Note」(学事出版発行)の、設計協力を行った。(平成24年2月発刊)

(調査活動)

- 平成25年 6月 京都文教短期大学附属小学校研究会に参加
 平成25年 7月 京都文教短期大学附属小学校研究会理科部会研究打合せ
 平成25年 8月 京都聖母学院小学校研究会に参加
 京都市立下鳥羽小学校研究打合せ
 日本教育学会第72回大会に参加、於：一橋大学
 日本理科教育学会第63回全国大会に参加、於：北海道大学高等教育推進機構
 平成25年 9月 日本教師教育学会第23回研究大会に参加、於：佛教大学
 平成25年11月 日本初等理科教育研究会 理科公開研究会に参加
 平成26年 3月 日本教師学学会第15回大会に参加、於：環太平洋大学

(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)

(学内活動)

- 平成25年 4月 FD委員会委員「現在に至る」
 小学校教職課程委員会「現在に至る」

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (11/11)

平成 二十一 〜 二十五 (2009〜2013) 年度の 社会に おける 活動	(自治体、行政等 官公庁からの委託事業や委員の嘱託)
	平成21年 4月 文部科学省「体力アッププロジェクト委員」(体育科指導法の研究)「平22.3まで」
	平成23年 4月 教育委員会「小学校理科研究会総務」(理科指導方の研究)「平24.3まで」
	平成25年11月 平成25年度秋期教員免許状更新講習講師、「授業と学級経営の相乗効果で子どもの可能性を伸ばす」於：京都文教大学
	(自治体や企業における研修等の講師)
	平成20年 1月 NPO法人主催「授業づくり」、「学級づくり」セミナー講師、対象：全国小・中・高教員、於：北海道帯広
	平成21年11月 岡山県 体力アッププロジェクトを進めるための公開授業、対象：県内小学校教員、於：岡山市立城東台小学校
	平成21年12月 岡山県 小学校英会話授業推進プロジェクト、外国語活動導入にあたっての公開授業、対象：県内小学校教員、於：岡山市立城東台小学校「平22.3まで」
	(自治体や企業における研修等の講師)
	平成25年 7月 京都府相楽郡 理科主任対象 小学校理科研究会、講演「児童が、自然に親しみ、意欲的・主体的に探究し、実感を伴った理解をすることができる理科教育の創造」於：京都府木津川市立相楽小学校
	平成25年11月 京都府相楽郡 小学校教師対象 小学校理科授業研修会 講師、於：京都府木津川市立恭仁小学校
	平成25年12月 小学校理科「探究心を引き起こす理科授業 4年「物の温度と体積」」公開授業者、於：京都市立下鳥羽小学校
	(その他)
	平成25年 7月 京都市洛央小学校理科研修会にて授業参観と助言を行う。於：京都市洛央小学校
	平成25年 9月 関西外国語大学非常勤講師(「教育方法論の理論と実践」を2コマ担当)
	平成25年 9月 複数の京都市内小学校の理科主任と、「理科における協同学習の進め方」の研究を行い、その研究成果を共著としてまとめた。
	平成25年12月 京都市内小学校校長、教頭、教諭及び京都市教育委員会指導主事と連携し、新任教員が現場に適応できるように必要な知識と技能の検討を行い、教員研修などで使用可能なマニュアルとしてまとめるための作業を行った。「現在に至る」